３．都市づくりの目標

（１）将来都市像及び都市づくりの目標

本計画は、これからの小牧市が目指す都市像を都市計画・都市づくりの分野から実現するための施策の大きな方向性を示すものです。そこで、本計画における将来都市像は、上位計画である小牧市まちづくり推進計画を踏まえるものとします。

本市が目指す将来都市像を踏まえつつ、今後の都市づくり上の課題を踏まえ、目指すべき都市づくりの目標を定めます。

課題の整理　○強みを伸ばす　●弱みを克服する

(1)都市構造の視点－コンパクト＋ネットワーク－

○市街化区域における人口密度の維持、上昇
○市街地内における人口定着に向け、広く分布する市民の日常生活を支える都市機能の維持・充実
○鉄道駅やバス停を中心に日常的な生活圏がコンパクトにまとまった都市構造への転換
●現在の市街化区域を基本とした定住促進、都市的低・未利用地の活用等による居住の受け皿の確保
●中心拠点での既存ストックの改善や土地・建物の有効・高度利用の促進、多様な交流を生み出す都市機能や生活中心地にふさわしい都市機能等の集積強化による本市の「顔」として賑わいの創出・活性化

(2)都市活力の視点－産業振興・交流拡大－

○優れた広域交通体系による利便性を活かした工業・物流機能の集積強化
○充実した就業の場を背景とする若い世代の転入を今後も維持していくための雇用の場の確保
○既存の観光資源や広域交通体系へのアクセス利便性等を活かした中心拠点や市の東部での交流人口の拡大
○移動や産業活動の円滑化、生産力の拡大に向けた都市の骨格を形成する幹線道路網の整備・充実
●工業系用途地域内都市的低・未利用地の活用や土地利用の適正な誘導等による今後の産業立地の受け皿の確保
●工業等と住宅の混在がみられる準工業地域での居住環境と操業環境双方の悪化防止
●中心拠点等における商業業務機能をはじめとする第３次産業の集積強化

(3)都市生活の視点－コミュニティ活性化・安全安心－

○日常生活に必要なサービスの維持に向け、広く分布する市民の日常生活を支える都市機能の維持・充実
○計画的な市街地形成が図られた地区を中心に、整った都市基盤施設等を活用した良好な居住環境の創出
●高齢化が進み地域活力の低下がみられる集落地や住宅団地等における日常生活に必要な機能や居住の受け皿の確保、交流・地域活動を促進する場の形成等による地域コミュニティの再生・活性化
●車を運転できない高齢者でも容易に都市機能にアクセスできるような公共交通網の維持・効率化
●都市の防災性強化、空き家の発生抑制や適切な管理の促進による良好な居住環境の創出
●土砂災害や浸水等の自然災害の危険性の高い区域における防災・減災対策の実施や開発抑制
●中心拠点をはじめ市内に広く残る老朽建物のほか、多くの市民が利用する公共施設やインフラ施設等の耐震化

(4)都市環境の視点－環境負荷低減・自然保全－

○CO2 排出量の抑制といった環境負荷低減の観点からの利便性の高い公共交通網の維持・効率化
○身近な公園や緑地を活用した良好な居住環境の創出
○本市のシンボルとなる小牧山や歴史文化的資源等と調和した美しい都市景観の誘導
●市街地を取り巻く農地や森林の保全や活用
●市街化区域内農地の維持・保全や活用等の今後のあり方の明確化

(5)都市運営の視点－ストック活用・担い手づくり－

○鉄道駅やバス停を中心に日常的な生活圏がコンパクトにまとまった都市構造への転換（再掲）
○安定した財政力、高い工場等の立地ニーズを背景に、さらなる産業立地の促進による安定的な財政収入の確保
●今後の財政見通し等を踏まえた効率的で効果的な都市づくり
●将来の厳しい行財政状況を見据え、インフラ施設の維持管理等に対する住民や民間事業者等の協働化の促進
●老朽化するインフラ施設の効率的な修繕・更新の実施、長寿命化による更新コストの削減

都市づくりの目標

◎中心拠点や地域拠点、名鉄小牧線沿線を中心に居住や都市機能が集積した集約型都市づくり

利便性の高い市街地を中心に居住の維持・誘導を図り、特に名鉄小牧線沿線ではより一層人口等の集積を高めます。さらに、小牧駅周辺から小牧山・市役所周辺にかけてまちなか居住が進み、広域的な都市機能が高度に集積した中心拠点の形成、味岡駅周辺、桃花台センター地区及び藤島地区において日常的な都市機能が集積した地域拠点の形成を図ります。また、各拠点の形成にあわせ公共交通や徒歩などさまざまな交通手段による連携強化などにより、日常生活に必要な生活サービスが身近に確保された暮らしやすい集約型の都市づくりを目指します。

◎自然と調和しながら、新しい活力や多様な交流を育む産業基盤づくり

市域の西部及び中央部に広がる既存工業地における土地利用の適正な誘導や中心拠点の活性化、高速道路や県営名古屋空港など、広域交通体系への恵まれたアクセス利便性や既存ストックを活かし、優良農地や森林保全とのバランス及び自然との調和に配慮した新たな産業用地や広域交流拠点の形成、活発な産業活動や多様な交流を支える幹線道路網の充実などにより、自然と調和しながら、新しい活力や多様な交流を育む産業基盤づくりを目指します。

◎自転車や徒歩、公共交通を重視した、車に過度に頼らなくても安全・安心に暮らせる生活圏づくり

市民の豊かな暮らしを支える都市機能の誘導による拠点の形成にあわせ、広く分布した日常生活を支える都市機能の維持や集落地等での地域コミュニティの再生・活性化に向けた多様な世代の定住促進・充実した公共交通網を軸とした移動手段の確保、ユニバーサルデザインに配慮した都市空間の形成、災害に強い都市づくりや地域防災力の強化、事前復興準備の取組み推進などにより、自転車や徒歩、公共交通を重視した、車に過度に頼らなくても安全・安心に暮らせる生活圏づくりを目指します。

◎小牧の自然や歴史を大切にし、誇りの持てる都市環境・景観づくり

小牧山や熊野神社等の市街地内の貴重な緑、北東部の丘陵地の広域的な緑、歴史的な環境を形づくる緑等の保全と調和による環境負荷が少なく緑豊かで快適に暮らせる都市環境づくり、市内を流れる河川や貴重な緑地空間をつなぐ水と緑のネットワークの形成、本市のシンボルである小牧山の景観や中心市街地に残る寺院・仏閣等をはじめとする市民が誇りを持てる歴史的な環境やまち並みの保全などにより、小牧の自然や歴史を大切にし、誇りの持てる都市環境・景観づくりを目指します。

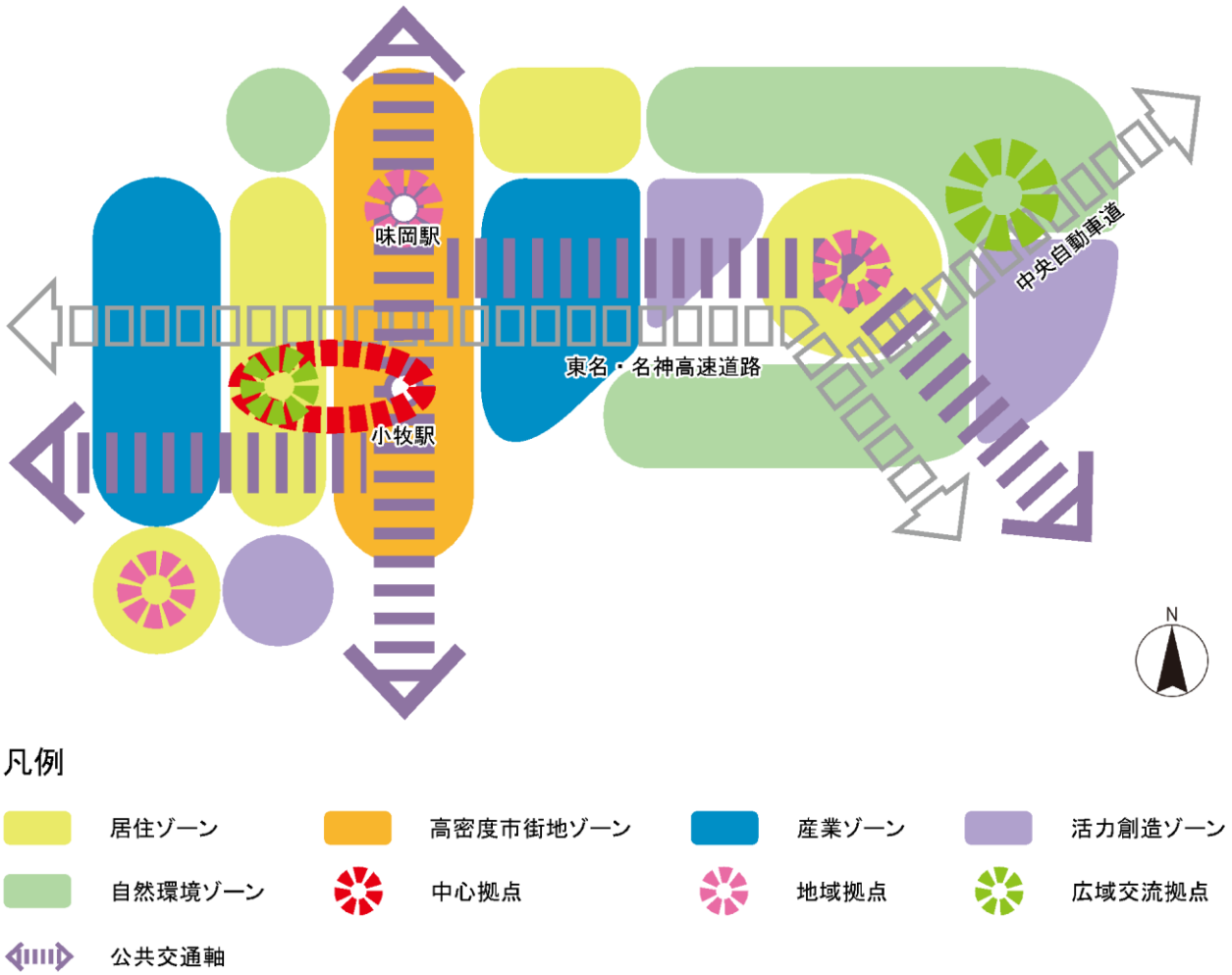
◎将来にわたり健全な都市運営が可能な持続発展を続ける都市づくり

集約型の都市構造への転換とあわせて、道路や公園等の都市基盤施設、公共建築物等の効率的な修繕・更新や長寿命化対策の促進、公的不動産をはじめとした既存ストックの有効活用、市民・民間事業者と協働した都市づくりの促進や新たな担い手づくりなどにより、都市運営にかかるコストや新たな費用負担を抑制し、将来にわたり健全な都市運営が可能な持続発展する都市づくりを目指します。

（2）土地利用構想

5つの都市づくりの目標を実現することで、本市が目指すべき概ね 20 年後の都市の姿（土地利用構想）を明らかにします。

図-土地利用イメージ



●居住ゾーン

利便性の高さを活かして居住の維持・誘導を図るとともに、車に過度に頼らなくても安全・安心に暮らせる生活圏が形成された住居系市街地の形成を目指します。

●高密度市街地ゾーン

名鉄小牧線沿線では、日常的な都市機能の維持・充実等により、一層人口等の集積が図られた市街地の形成を目指します。

●産業ゾーン

地域内の未利用地の有効活用を促進し、さらなる工業・物流機能等の集積が図られた工業系市街地の形成を目指します。

●活力創造ゾーン

自然と調和しながら、先端技術や研究開発機能などの工業施設等が立地する産業系市街地の形成を目指します。

●自然環境ゾーン

市街地を取り巻く農地、北東部の丘陵地の広域的な緑地等の保全や活用を目指します。

●中心拠点

小牧駅周辺から小牧山・市役所周辺にかけて、まちなか居住の促進や広域的な都市機能の高度な集積を目指します。

●地域拠点

味岡駅周辺、桃花台センター地区及び藤島地区において、日常的な都市機能の集積を目指します。

●広域交流拠点

小牧山や市民四季の森周辺では、広域交通体系への恵まれたアクセス利便性や既存の資源を活かし、交流人口の拡大、多様な交流の創出を目指します。

●公共交通軸

中心拠点と地域拠点の連携や都市間移動需要に対応する南北公共交通（鉄道）軸の強化、東西市街地及び拠点間の連携等を強化する東西公共交通（バス）軸の形成を目指します。